

大豊町の概要

位置 東経133度37分 北緯33度56分
面積 320.54平方キロ 東西 32キロ
南北 28キロ 部落数 86
人口 10,003 男 4,757 女 5,246
世帯数 3,460(8月末日現在住民基本台帳調)



昭和55年10月1日発行

全世帯配布

編集 館報大豊編集委員会

発行 大豊町中央公民館

印刷 高知印刷株式会社



いっせい放水

消防団員の基礎的訓練及び消防用機械器具の整備訓練によって部隊の行動を容易にし、厳正な規律を体得し、消防諸般の要求に適切させるための基礎を築き、かつ、この訓練を通じて住民の生命財産を保全することを目的として八月十七日に大田小学校前の吉野川河原で実施されました。機

消防団員の基礎的訓練及び消防用機械器具の整備訓練によって部隊の行動を容易にし、厳正な規律を体得し、消防諸般の要求に適切させるための基礎を築き、かつ、この訓練を通じて住民の生命財産を保全することを目的として八月十七日に大田小学校前の吉野川河原で実施されました。機

大豊町消防団
夏期演習実施さる
板送り競技では
落合部・舟戸部が
それぞれ優勝

以上



白熱する板送り競争



表彰を受ける落合部

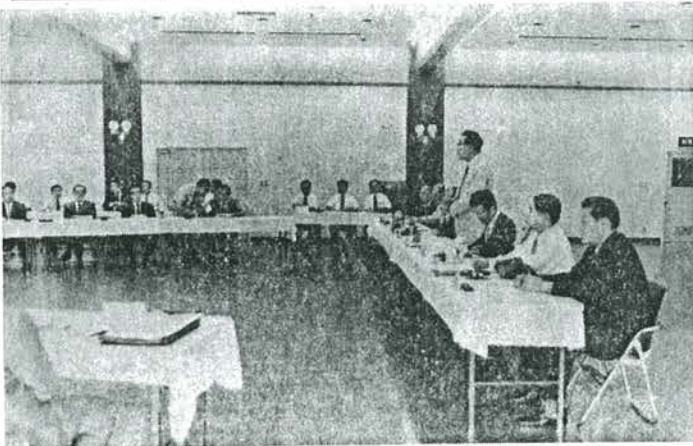
表彰を受ける舟戸部

県と町村(土・長郡)
行政連絡会開かれる

去る八月十八日、大豊町農工センター文化ホールに於て、高知県と土佐郡長岡郡下の町村長、議会議長出席のもと、行政連絡協議会が開かれました。この会は高知県が県下の各町村を、数ブロックに分けて、県知事以下各部の執行部が直接現地で市町村の首長、議会議長から県行政に対する意見の聞き、県と町村の連携のもとに今後の県政に反映すべく開かれています。当日県側は、中内知事を始め、杉本県議、又各部の部長、副部長等も出席し始めに土佐郡町村会長の挨拶で始まり、県下の各首長からは、県に対し、集落整備事業の予算増大、中山間地域にお

岩原「トウジ山」の地すべり
その後も土砂の崩落つづく

地滑りの続いているトウジ山(標高七二七メートル)は、八月の長雨により急激な変化をおこし毎日のように地滑りと土砂の崩落が続いており、危険地域の住民は不安の中避難のための家具等の荷送りの為大変な毎日を送っている。本年六月中旬より特に急激な大規模な地滑りに伴ない町としては、まず地域住民の人命に損傷をきたさないようトウジ山地域防災計画を定め、地元防災委員(下村博信氏)並びに関係機関の御協力を得て危険世帯員の避難態勢の確立に万全を期すると共に、国県並びに関係機関に対し砂防堰堤等の防災工事の早期着工を陳情して参ったのであります。その後早速県は、七月末から緊急治山事業の砂防堰堤を建設すべく地質調査に入っていたが相次ぐ長雨や集中豪雨により

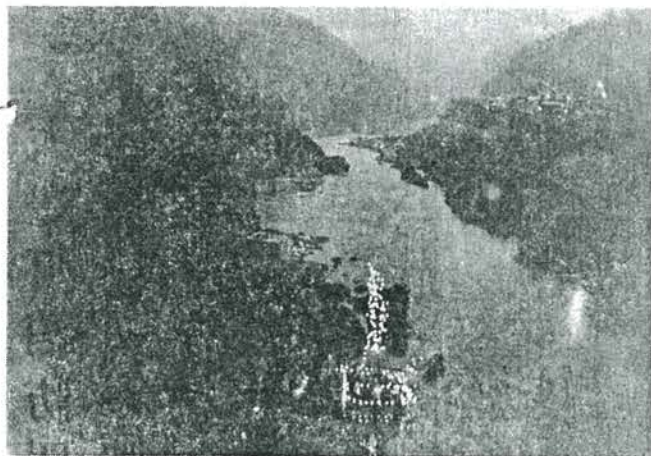


挨拶する中内知事

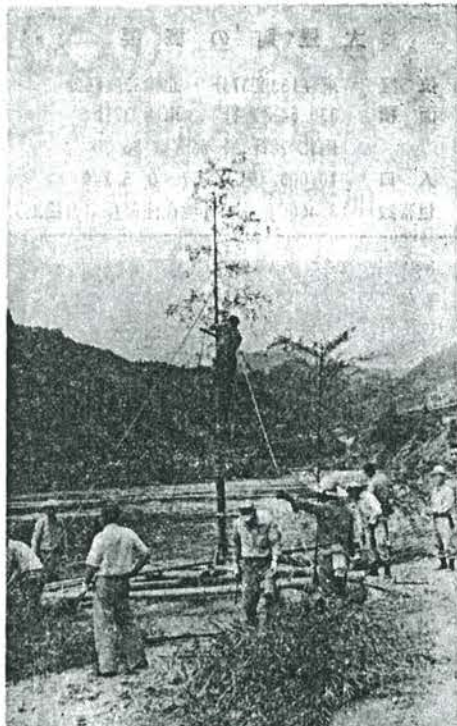
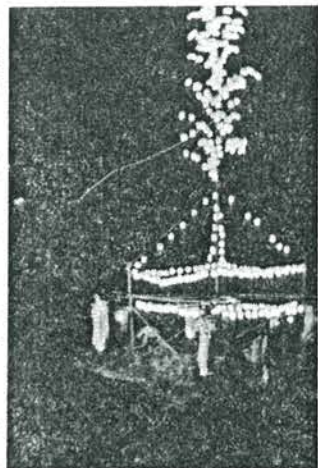


施餓鬼船(瀬がけ)行事

町の無形民俗文化財に指定



旧盆十六日に、吉野川及び支流の穴内川で行なわれ、瀬がけは、お盆行事として古くから町内の一部の地区で実施されています。町の文化財調査委員会では、昨年に引き続き調査した結果、去る九月十六日開かれた教育委員会に於て正式に、町の無形民俗文化財とする保存会の人達



健康づくり婦人会 保健班長会 食生活推進員 合同 研修会

健康優良家庭・献血者の
表彰も同時に

昭和五十五年度の合同研修会。保健班長会会長の修会が去る九月二日、農工「浜田豊高」氏の開会宣言センターに於て実施され、町長、門田盛一

俳句

「青玄」 兩國支部
森 武司

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

瀬に上りて喚きちらせり
施餓鬼船 水音いま

愛の献血
ありがとう
献血関係被表彰者
協議会長表彰(一)は回数
▽上田峰子(五)▽丸山磯
恵(七)▽吉村正気(六)
▽秋山勉(五)▽佐々木悦
男(五)▽山崎登子(六)
▽久保豊子(六)▽岡林千
年(五)▽栗岡薫(五)▽
賀桂太郎(六)▽北村卓司
(五)▽朝倉和美(六)▽
小松光美(七)▽渡辺宣彦
(五)▽前田尊博(六)▽
門田将男(五)▽山中由子
(五)▽小笠原武生(五)
▽森尾五郎(五)▽吉永健
(五)▽原勉(五)▽島村
忠秋(六)▽宮本一男(六)
▽中山敏子(五)▽小笠原
近子(六)
日赤関係表彰
金色特別社員章(20回以上)
▽高橋邦寿(21)▽徳弘秀
行(21)▽渡辺充泰(20)
銀色特別社員章(10回以上)
▽堤信雄(11)▽沢邦代
(10)▽小川和子(10)▽
吉村崇子(10)▽小林康夫
(10)▽小笠原信夫(10)
▽森本美佐子(10)▽小笠
原信一(10)三浦紀秀(10)
▽吉川幸(10)▽秋山純夫

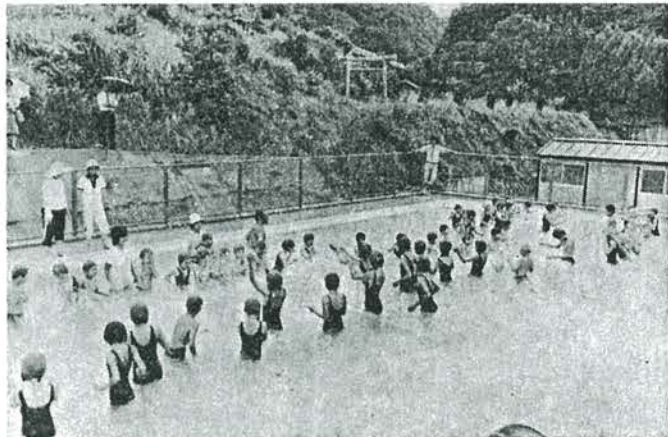
しぶきをあげて 子供達の歓声

大杉中学校 プール完成

大杉中学校整備の一環としてのプール開きでしたが、とて去る六月から工事を進めていた。大杉中学校に、小雨も吹き飛ばす勢いプールの完成が、県体育指導主事の八月三十日、町長を始め、先生、模範水泳も披露され、議会の方々又関係者出席の、議長、北村秀夫氏も初もに盛大な落成式典が、水着を披露し元氣なところなされ、生徒代表による、プールカットのあと、補助プールでは、小学校の生徒も参加して泳ぎ始めました。あいにくの小雨の中



生徒代表、委員長、校長のテープカット



水しぶきあげて補助プールで小学生



煮えてる、煮えてる—野外炊事

育ちゆく子ども会リーダー

甫喜ヶ峰でインリーダースクールを実施

中・四国ジュニアリーダー大会へ27名が参加

子ども会を集めよう。育てよう。広げようを合い言葉で行った。子ども会指導者が一体となって、子ども会を重ねて三年。今年はジュニアリーダーとインリーダーを育てよう、ことりのつうがく級、生が中心となつてジュニアリーダースクールとインリーダーを実施した。

去る八月二十日から二十三日まで三泊四日で国立室戸少年自然の家で第八回中国、四国地域子ども会ジュニア、リーダー大会が行なわれた。

大豊からは、毎年行っているジュニアリーダースクールのこれに当て、町内一円から二十七名が参加して、内容は班活動を中心として行なわれた。講義、討議、野外活動、実習を通じて、ジュニアリーダーにふさわしい知識、技術を身につけた。

閉会式では、三泊四日の研修で心を暖めあった仲間と涙の握手で別れた。

も達は、楽しく有意義な良い思い出となつたようであ

る。 去る九月十三日、十四日一泊二日で重喜ヶ峰でインリダー・スクールを行った。 この日は町内の小学五、六年の子ども会員二十八名、ジュニアリーダー四名、成人指導者十名が重喜ヶ峰に集まった。ここのりとすゝ学級生とジュニアリーダーの指導のもと野外炊事、キャンプファイヤー、追跡ハイキング、キャ



甫喜ヶ峰でのキャンプファイヤー

「十年後の町のすがた」！！

合併25周年記念懸賞作文募集

今後十年後を予測し、我が町大豊町のあるべき姿を広く町民の皆様と考えていただくことを主旨に懸賞作文の募集をいたします。ふるって御応募下さい。

れ記念品を贈呈）別記
十、審査方法
教委、文推協、校長会及
び学識経験者を含む11名で

十一、応募者には記念品を贈呈する。

区 分		入 賞	佳 作
一級(大学生含)		金賞1点 50,000円 銀賞1点 30,000円	佳作5点 10,000円
児童・生徒	小学生	賞品をもって充る ⁵	々 5
	中学生	々 5	々 5
	高校生	々 5	々 5

区 分			
一級(大学生含)		制限なし400字詰原稿用紙使用	住所氏名職業を明記すること。
児童・生徒	小学生	2000字以内	在学校名学年氏名を明記すること。
	中学生	々	々
	高校生	々	々

芸
術
の
秋

◎ 作品募集中
◎ 初心者歓迎

第10回 嶺北総合美術展

出品部門 絵画・書道・彫塑工芸・写真

作品の搬入 10月20日(月) AM8:00~PM7:00

農工センター2階中央公民館へご持参下さい

会期(大豊会場) 11月7日～11月11日農工センター

審 査 10月24日 本川村役場

入選の発表 有線、館報で発表する

スポーツの秋

第9回 大豊町民体育祭

と き 11月3日(月)文化の日 9時集合9時30分開会

ところ 大杉農村広場（旧中州・町民グラウンド）

・3日雨天の場合は11月9日（日）に行います

・県民総スポーツ推進のとき、町民こぞって体育祭に
参加しましょう

・大杉中学校のブラスバンドの吹奏楽に合わせて入場
します

文化の秋

第8回 大豊町民文化祭 (県芸術祭参加)

と き 11月16日（日曜日） 8時30分～15時30分

ところ 大豊町立大杉中学校

文化部門

内 容 ● 発表部門＝音楽(大正琴、のど自慢を含む)民謡、日本舞踊、郷土芸能、謡曲・詩吟、茶席・その他
● 展示部門＝盆栽・生花・生卉・日本画・洋画・書道・農林漁工部門・写真・民芸・学校巡回展・その他

農林商工部門

● 各種商品及び即売コーナー

● 入場無料



館長・主事会のもよう

中央公民館運営審議会
地区公民館長、主事会
開かれる

昭和五十五年度の中央公民館運営審議会が去る八月二日農工センターで開かれた教育長及び中央公民館から五十五年度の事業計画や公民館全般についての報告があり協議した委員。新たに委嘱された委員の人数や、中央公民館の取り壊しの問題、社会教育予算等について鋭い質問が出され又今後は運営審議会も年間二回ないし三回は開いてほしいとの強い要望が出された。午後は地区公民館長、主事の会も開かれ、地区館の五十四年度の活動実績や、地区館独自の五十五年度事業計画などが出され、席上各地区館とも、活動資金が不足するの地区館の予算を大幅にアップするよう要望があり、館長、主事、自ずから、資向上のため研修の必要もあり、本年は自費でも先進地研修を実施したいとの事で五十五年度中に適當なところを研修する事が決まりました。中でも大田口地区公民館の手で新しい地区館報「おおたぐち」が披露され、大田口地区館の活動に出席者一同の暖かい拍手が沸きました。

話し合いのあと、大豊園長「中西盛興」氏の「地区公民館の役割」と題した講演もなされ、会を終了しました。新しい役員は次の方々です。

中央公民館運営審議会
会長▽北澤博章 副会長▽小笠原恒子
地区公民館連絡協議会
会長▽小笠原武繁、副会長▽大地幸二郎。

▽少し休みをいただいている間に、秋の訪ずれとなりました。きれいな事でなく、町民の生の声も広報に。とのお叱りもあります。皆さんの声もぜひ紙面に。取材している時間がなくて残念です。どうか生の声を投稿して下さい。

▽台風十三号で稲や、桑、農作物に大きな被害が出ました。心から御見舞申し上げます。

▽天高く馬肥ゆる秋——芸術、文化の秋であります。嶺北展への参加もよろしく。季節の移り変りにそろそろ人生の秋も感じます。